

神奈川

七夕まつりで知られる平塚市に2016年10月、三井不動産の大型商業施設「ららぽーと湘南平塚」が開業した。湘南地区だけでなく西湘、県央地区も商圏とし、年間売上高300億円を目指す。同市内では18年に「イオンモール平塚」(仮称)の開業計画もあり、既存の商業施設や商店街も巻き込み、商戦が激化しそうだ。

ららぽーと湘南平塚のコンセプトは、ショッピングや食事だけでなく、新たな集い、つながりなどを生み出す意気込みを込めて「ひらつかりビング～マイ・サード・プレイス～」とした。象徴的なスペースが、樹上の家をイメージし、イベントや休憩など多目的な用途に対応できる「ショーマン・ツリー・ハウス」だ。

3階建て、店舗面積は約6万平方メートルで、県内初出店の39店舗を含む247店舗が入った。同市をホームタウンとするサッカーチームの湘南ベルマーレ、同市と縁が深い日産自動車とのコラボレーション店舗なども出店。ららぽーとを運営・管理する三井不動産商業マネジメントは、ベルマーレとオフィシャルクラブパートナー契約を結んだ。

ららぽーと湘南平塚は、日産車体湘南工場第1地区の跡地(18.2ヘクタール)の複合開発事業の一環として開業した。分譲マンションや病院も建設中で、街区の総称は「ららシティ湘南平塚」と決定。JR平塚駅から徒歩圏に立地し、周辺には市役所や美術館、総合公園なども集積することから、同市の“新しい顔”になることが期待される。

一方、市北部では新幹線新駅誘致に絡む「ツインシティ構想」の一環として、大型商業施設・イオンモールの進出が決まっている。イオンモールが2013年7月に発表した計画では、敷地面積はららぽーと湘南平塚の1.5倍強の約12万6,000平方メートルで、開業予定は18年。「店舗面積、テナント構成などは決定後に知らせる」としている。

同市の商業は第二次大戦後、衣料品を中心に飛躍的に発展し、50年代半ばから60年代半ばには「湘南の商都」として隆盛を極めた。しかし、商店街の衰退や周辺都市の大型商業施設の集積



「ららぽーと湘南平塚」のコンセプトを象徴するスペース「ショーマン・ツリー・ハウス」

「湘南の商都」復活へ期待高まる

に伴い、70年代以降、商圏が徐々に縮小。近年では、藤沢、茅ヶ崎、小田原各市などに消費者が流出しているありさまだった。

藤沢市のJR辻堂駅前に2011年11月開業した住友商事の大型商業施設「テラスモール湘南」は、平塚、茅ヶ崎など近隣市町も商圏として右肩上がり成長を続け、15年度は売上高約540億円、来館者約2,330万人を記録。15年4月には、最も優れたショッピングセンターに贈られる第6回日本SC大賞・金賞を受賞した。

平塚市商店街連合会は、ららぽーと湘南平塚の開業を前向きにとらえ、16年10月から加盟商店街の活性化に乗り出した。「駅近キラ☆キラ商店街」事業と題して、店舗の歴史や匠の技などを前面に出し、新たな顧客づくりを狙う。市民らは「商店街と大型商業施設の共存で買い物が便利になり、街が活気づく」と「湘南の商都」復活を期待している。